



HIV 感染ハイリスク層への情報伝達方法及び意識調査の研究

研究分担者

生島 嗣 (特定非営利活動法人ぷれいす東京)

研究協力者

岩橋 恒太 (特定非営利活動法人 akta)

市川 誠一 (人間環境大学看護学部)

藤田 彩子 (東京大学大学院医学系研究科)

研究要旨

本研究では、安全な献血血液確保のための有効な情報伝達のあり方および普及啓発方法を検討し提示するため、わが国のエイズ発生動向調査で感染者・患者報告数の多くを占め、HIV 感染のハイリスク層の一つである MSM (Men who have Sex with Men) における献血についての意識や行動の実態を明らかにすることを課題とした。今年度は、昨年度のインタビュー調査に基づき、自記式質問紙調査を計画し、生涯の献血教育に触れた機会、献血時の問診を受けた経験に関する質問に加え、これまでの MSM としての性行動、HIV 検査受検行動に関する質問を設け実施した。分析対象 2,026 件のうち、献血経験割合は 65.8% で、過去 1 年の献血経験割合は 21.8% であった。献血をする動機は社会貢献の意識が最も多く、次いで健康管理などが挙げられていた。集団献血の経験者は 46.0% で、そのうち学校が 47.8%、職場が 44.0% だった。また、献血の制限項目の認識は 81.2% が認知をしているものの、献血場所で知ったという人が 70.2% と最も多く、事前の情報提供に課題がのこされていた。次年度は、献血者側の意識を高め、実態に即した現状を問診回答できるように、齟齬を是正するための取り組みが必要とされている。

今年度の報告では、回答者を 10 代 (18 歳以上)、20 代、30 代、40 代、50 代、60 歳以上の 6 区分年齢層に区分した分析結果を報告した。

研究目的

我が国は、少子高齢化による人口動態、臓器移植の推進などにより献血液の需要が一段と高まると予測される。一方で若者の献血離れなどにより、需要に対する供給は不足すると推計されており、将来の高まる需要に見合った献血の確保は極めて重要である。他方、昨今献血による HIV 感染事例が問題となった。若林、生島らの HIV 陽性者を対象にした調査によれば、感染判明がのきっかけが献血であるものが 3.1% あった。感染の可能性の認識は他の手段に比べると低いものの、そのうち 27.2% は献血時に HIV 感染可能性がある程度以上あったと回答している。市川、塩野らによる一般人口を対象とした調査からは、過去 6 か月間の献血経験をもつ MSM (Men who have Sex with Men) がある一定割合がいることが報告されている。しかし、その背景については不明な点が多くより詳細な調査が求められている。

そこで本研究では、安全な献血血液確保のための有効な情報伝達のあり方および普及啓発方法を検討し提示するため、ハイリスク層 (MSM) における献血についての意識や行動の実態を明らかにすることを目的とする。

研究方法

1. MSM を対象とする献血に関連する経験に関する調査

MSM を対象としたインターネット上での無記名自記式質問紙調査を行う本調査に先だって、適切な質問紙作成のためのパイロット調査を 2015 年度に行った。今年度は、パイロット調査をもとに修正を加えた質問紙を用いて、本調査を行った。

① 2015 年度パイロット調査：質問紙作成のため、献血で陽性が判明した MSM および献血習慣がある MSM、3 名程度を対象に、個別の半構造化された質問紙を元に聞き取り調査を実施した。献血や検査に至る経過について面接し、事例を収集した。その内容に基づいて調査項目案の妥当性を考査した (面接時間 30 ~ 60 分)。面接内容は研究参加者の同意のもと録音した。リクルートは、HIV 陽性 MSM の場合はぷれいす東京に対面相談で来所経験がある者から、献血習慣がある MSM の場合は機縁法で、協力を依頼した。質問項目は下記の通りである。

- ・属性
- ・自己のセクシュアリティの認識や行動
- ・献血経験、動機、知識
- ・HIV 検査受検経験
- ・献血 / エイズ教育に触れた経験 など、全 26 問

② 2016 年度本調査：MSM を対象にした MSM 向けホームページ利用者を対象とし、昨年度のパイロット調査をもとに作成した質問紙を用いて、ウェブ調査を行った。

2. 調査の実施

リクルート方法は、MSM 向けホームページにバナー広告を出稿し、ウェブ調査へリクルートした。参加者は各自の保有する携帯電話端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、同意の上調査に参加するものとした。回答を終了した者のうち、抽選で 1000 人に金券 500 円を提供した。

【取り込み基準】

回答は Cookie により同一回答防止をし、すべての設問に回答した者のみを有効回答とした。

3. 調査期間

2016 年 12 月 3 日～9 日の 7 日間で実施した。該当の期間、ホームページ上にバナー広告を出稿し、12 月 10 日にウェブ調査のためのサイトの公開を停止した。

4. 質問項目

年齢、HIV 感染予防行動、HIV 検査行動、献血行動、献血に関する知識、および献血の制限項目に関する評価について、合計 55 問を選択形式および自由記述方式で尋ねた。

5. 分析方法

得られた回答数は 2,526 件、有効回答は 2,286 件であった。分析にあたって、日本国内に居住する MSM(性別を男性と回答、生涯同性との性経験あり)に限定し、すでに HIV 陽性を確認している回答者を除外した 2,026 件を分析対象とした。2026 件の回答者を 10 代(18 歳以上)、20 代、30 代、40 代、50 代、60 歳以上に年齢層を区分し、回答者の属性、HIV 検査行動、HIV 感染自己評価・性感染症既往、HIV の学習歴・身近さ、性行動、献血学習歴・身近さ、献血行動、献血知識・制限事項について、記述的分析を実施した。年齢階級別の集計結果を付表 1～9 に示した。分析には、IBM SPSS Statistics 23.0 - Mac OS を用いた。なお、統計的有意水準は 5%未満とした。

(倫理面での配慮)

本研究の研究計画については、特定非営利活動法人 ぷれいす東京倫理委員会(2015 年 11 月)より承認を得て実施した。研究参加者に対し、本研究の参加は、参加者の自由な意思であり、不参加の場合でもいかなる不利益が生じないことを、説明文書および質問紙に明記した。また、答えづらい質問には答えなくてよいことを伝えた。

研究結果

1. 調査参加者の属性(表 1)

分析対象の 2,026 件の年齢階級は、10 代 39 件(1.9%)、20 代 595 件(29.4%)、30 代 612 件(30.2%)、

表 1. 回答者基礎情報

	10代 n=39	20代 n=595	30代 n=612	40代 n=626	50代 n=139	60歳以上 n=15	合計 N=2,026	Pearson カイ2乗							
あなたは現在どこに住んでいますか？															
北海道・東北ブロック	3	7.7%	54	9.1%	63	10.3%	56	8.9%	10	7.2%	1	6.7%	187	9.2%	0.71
東京	7	17.9%	132	22.2%	146	23.9%	140	22.4%	27	19.4%	0	0.0%	452	22.3%	
関東・甲信越ブロック(除く東京)	6	15.4%	123	20.7%	114	18.6%	128	20.4%	22	15.8%	4	26.7%	397	19.6%	
東海	7	17.9%	70	11.8%	76	12.4%	69	11.0%	21	15.1%	3	20.0%	246	12.1%	
北陸ブロック	0	0.0%	7	1.2%	11	1.8%	11	1.8%	2	1.4%	0	0.0%	31	1.5%	
近畿ブロック	8	20.5%	102	17.1%	102	16.7%	111	17.7%	31	22.3%	0	0.0%	354	17.5%	
中国・四国ブロック	3	7.7%	42	7.1%	30	4.9%	40	6.4%	10	7.2%	3	20.0%	128	6.3%	
九州ブロック	5	12.8%	65	10.9%	70	11.4%	71	11.3%	16	11.5%	4	26.7%	231	11.4%	
あなたの出身はどこですか？															
日本国内	38	97.4%	582	97.8%	601	98.2%	626	100.0%	138	99.3%	15	100.0%	2000	98.7%	0.09
海外	1	2.6%	12	2.0%	6	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	19	0.9%	
不明	0	0.0%	1	0.2%	5	0.8%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	7	0.3%	
これまでに、以下の施設やサービスを利用しましたか？(あてはまるものすべてに✓)															
HIV エイズの電話相談	0	0.0%	18	3.0%	21	3.4%	21	3.4%	5	3.6%	0	0.0%	65	3.2%	
ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」	6	15.4%	157	26.4%	167	27.3%	158	25.2%	24	17.3%	2	13.3%	514	25.4%	
ウェブサイト「HIVマップ」	3	7.7%	85	14.3%	97	15.8%	85	13.6%	13	9.4%	1	6.7%	284	14.0%	
HIV エイズのコミュニティセンター ター仙台、新宿、名古屋、大阪、博多、那覇	2	5.1%	63	10.6%	77	12.6%	67	10.7%	22	15.8%	2	13.3%	233	11.5%	
保健所・検査所の HIV エイズの相談	7	17.9%	186	31.3%	258	42.2%	224	35.8%	42	30.2%	4	26.7%	721	35.6%	
いずれもなし	29	74.4%	285	47.9%	252	41.2%	299	47.8%	72	51.8%	9	60.0%	946	46.7%	
過去 6 ヶ月間に、以下の施設やサービスを利用しましたか？(あてはまるものすべてに✓)															
ゲイバーやハッテン場などの商業施設															
ゲイ向けのスマホアプリ 9monsters、Jack'd など	34	87.2%	564	94.8%	570	93.1%	561	89.6%	122	87.8%	10	66.7%	1861	91.9%	
LGBT 関連のサークル活動	0	0.0%	55	9.2%	54	8.8%	34	5.4%	7	5.0%	2	13.3%	152	7.5%	
LGBT 関連のボランティア活動	1	2.6%	15	2.5%	13	2.1%	8	1.3%	3	2.2%	0	0.0%	40	2.0%	
いずれもなし	3	7.7%	24	4.0%	24	3.9%	42	6.7%	13	9.4%	0	0.0%	106	5.2%	
あなたは現在、健康保険を持っていますか？															
国民健康保険を持っている	9	23.1%	143	24.0%	139	22.7%	156	24.9%	38	27.3%	5	33.3%	490	24.2%	<0.01
職場の健康保険を持っている	2	5.1%	327	55.0%	458	74.8%	449	71.7%	96	69.1%	10	66.7%	1342	66.2%	
親や家族の扶養(ふよう)を持っている	28	71.8%	116	19.5%	9	1.5%	8	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	161	7.9%	
持っていない	0	0.0%	9	1.5%	6	1.0%	13	2.1%	5	3.6%	0	0.0%	33	1.6%	

40代 626件 (30.9%)、50代 139件 (6.9%)、60歳以上 15件 (0.7%) となった。居住地は北海道・東北 187件 (9.2%)、東京 452件 (22.3%)、関東・甲信越 (除く東京) 397件 (19.6%)、東海 246件 (12.1%)、北陸 31件 (1.5%)、近畿 354件 (17.5%)、中国・四国 128件 (6.3%)、九州 231件 (11.4%) であった。関東近県の回答が多いものの、全国からの回答を得ることができた。健康保険証の所持状況では、国民健康保健および職場の健康保健を所持しているのが 90.4%、親・家族の扶養に入っているのが 7.9% だったのに対し、いずれの健康保険証についても持っていないと回答したのが 1.6% だった。

2. HIV 検査行動 (表 2)

HIV 検査の生涯受検経験は、全体で 70.7% が受検したことがあると回答していた。年齢階級別にみると、10代 17.9%、20代 63.4%、30代 75.0%、40代 76.0%、50代 75.5%、60歳以上 53.3% だった。生涯受検経験者のうち過去 1 年間に受検している割合は 56.2% であり、これは先行研究と比較しても、高い割合にあった。年齢階級別にみると、10代 71.4%、20代 67.6%、30代 53.8%、40代 50.6%、50代 49.5%、60歳以上 62.5% だった。

一方、生涯に HIV 検査を受検したことがない回答者を対象に、その理由も本調査では訊いた。最も多い理由が「検査を受ける機会が無かった (54.9%)」が最も多く、「検査を受ける時にゲイ・バイだと説明するのが面倒だ (29.5%)」、「陽性という検査結果を知るのがこわい (28.5%)」、「HIV 感染の可能性がない (24.4%)」がそれに続いた。

3. HIV 感染自己評価・性感染症既往 (表 3)

現在、自分が HIV に感染している可能性の自己評価については、かなりある 0.6%、ある程度ある 16.0%、ほとんどない 60.3%、まったくない 23.1% だった。

HIV 感染症以外の性感染症の既往は全体で、ある 33.1%、ない 66.9% だった。年齢階級別にみると、10代 2.6%、20代 20.5%、30代 35.9%、40代 42.2%、50代 41.0%、60歳以上 40.0% だった。生涯に感染したことのある性感染症について症状別にみると、毛じらみ 54.8% が最も多く、梅毒 29.7%、クラミジア 27.9%、B 型肝炎 17.8%、淋病 17.0%、尖圭コンジローマ 16.1% が続いた。

4. HIV の学習歴・身近さ (表 4)

HIV/ エイズについての学校等での学習については全体で、経験あり 53.7%、経験なし 46.3% だった。年齢階級別にみると、10代 97.4%、20代 88.6%、30代 64.2%、40代 19.5%、50代 5.8%、60歳以上 0.0% だった。疾病としての HIV/ エイズ「発見」が 1980 年代前半であったことを考慮すれば、中高年層が教育課程のなかで HIV/ エイズの学習の機会がなかったことは当然と考えられるだろう。学習機会のあった学校としては、高等学校 68.7% が最も多く、中学校 62.3%、小学校 20.1%、大学・短大 15.6% が続いた。

友だちや知り合いに HIV に感染している人がいると思うかという問いでは、「いる (29.9%)」が最も多く、「いると思う (22.6%)」、「いないと思う (22.6%)」、「わからない (18.7%)」、「いない (6.2%)」と続いた。「いる」、「いると思う」をあわせると半数を超えていた。

5. 性行動 (表 5)

今回の分析対象が MSM であるため、定義上、分析対象者はすべて生涯に同性とセックス経験がある。はじめて同性とセックスをした時期については 20代 47.7%、10代 42.3%、30代 7.5% だった。同性とのアナルセックスは 95.7% が経験していて、経験のある回答者のうち 69.2% が現在から過去 6 ヶ月のあいだにアナルセックスをしていた。最後のアナルセックス時のコンドーム使用については、「使った (58.5%)」、「使わなかった (38.5%)」だった。

表 2. HIV 検査行動

	10代 n=39	20代 n=595	30代 n=612	40代 n=626	50代 n=139	60歳以上 n=15	合計 N=2,026	Pearson カイ2乗
これまでに HIV 抗体検査 (エイズ検査) を受けたことはありますか？								
ある	7	377	459	476	105	8	1432	70.7%
ない	32	218	153	150	34	7	594	29.3%
一番最後に HIV 抗体検査 (エイズ検査) を受けたのはいつですか？								
過去 1 年の間	5	255	247	241	52	5	805	56.2%
1 ~ 2 年前	1	86	87	83	21	0	278	19.4%
3 年以上前	1	36	125	152	32	3	349	24.4%
HIV 抗体検査 (エイズ検査) をこれまで受けてなかった理由は下記のうち、どれにあてはまりますか？ (あてはまるものすべてに V)								
陽性という検査結果を知るのが								
こわい	10	51	47	51	7	3	169	28.5%
HIV 感染の可能性がない	6	43	41	44	9	2	145	24.4%
あいまいなままにしておきたい	2	10	14	15	5	3	49	8.2%
どこで検査を受けたいかわからない	10	56	25	20	2	0	113	19.0%
検査を受ける機会がなかった	20	133	75	76	21	1	326	54.9%
検査を受けるのにお金がかかる	6	27	16	10	1	0	60	10.1%
HIV に感染しているのではないかと他の人から疑われる	2	19	6	16	1	1	45	7.6%
検査を受ける時にゲイ・バイだと説明するのが面倒だ	7	65	40	50	10	3	175	29.5%
その他	1	12	12	5	1	0	31	5.2%

表 3.HIV 感染自己評価・STI 既往

	10代 n=39		20代 n=595		30代 n=612		40代 n=626		50代 n=139		60歳以上 n=15		合計 N=2,026	Pearson カイ2乗	
今現在、あなたがHIVに感染している可能性はどの程度あると思いますか？															
かなりある	0	0.0%	3	0.5%	3	0.5%	5	0.8%	1	0.7%	0	0.0%	12	0.6%	0.1
ある程度ある	7	17.9%	104	17.5%	95	15.5%	90	14.4%	24	17.3%	4	26.7%	324	16.0%	
ほとんどない	28	71.8%	374	62.9%	374	61.1%	356	56.9%	81	58.3%	9	60.0%	1222	60.3%	
まったくない	4	10.3%	114	19.2%	140	22.9%	175	28.0%	33	23.7%	2	13.3%	468	23.1%	
あなたはこれまでにHIV以外の性感染症にかかったことがありますか？															
ある	1	2.6%	122	20.5%	220	35.9%	264	42.2%	57	41.0%	6	40.0%	670	33.1%	<0.0
ない	38	97.4%	473	79.5%	392	64.1%	362	57.8%	82	59.0%	9	60.0%	1356	66.9%	
これまでにかかったことのある性感染症はどれですか？(あてはまるものすべてに✓)															
梅毒	0	0.0%	23	18.9%	60	27.3%	88	33.3%	26	45.6%	2	33.3%	199	29.7%	
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	6	2.3%	1	1.8%	0	0.0%	8	1.2%	
B型肝炎	0	0.0%	11	9.0%	48	21.8%	47	17.8%	12	21.1%	1	16.7%	119	17.8%	
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	2	0.8%	1	1.8%	0	0.0%	4	0.6%	
クラミジア	1	100.0%	34	27.9%	65	29.5%	70	26.5%	15	26.3%	2	33.3%	187	27.9%	
尖圭コンジローマ	0	0.0%	17	13.9%	44	20.0%	39	14.8%	7	12.3%	1	16.7%	108	16.1%	
淋病	1	100.0%	22	18.0%	33	15.0%	45	17.0%	10	17.5%	3	50.0%	114	17.0%	
アメーバ赤痢	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	9	3.4%	6	10.5%	0	0.0%	17	2.5%	
毛じらみ	0	0.0%	64	52.5%	120	54.5%	146	55.3%	32	56.1%	5	83.3%	367	54.8%	
生殖器ヘルペス	0	0.0%	10	8.2%	13	5.9%	21	8.0%	7	12.3%	1	16.7%	52	7.8%	
その他	0	0.0%	4	3.3%	5	2.3%	9	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	18	2.7%	

表 4. HIV の学習歴・身近さ

	10代 n=39		20代 n=595		30代 n=612		40代 n=626		50代 n=139		60歳以上 n=15		合計 N=2,026	Pearson カイ2乗	
これまでに学校の授業でHIVやエイズについて習ったことがありますか？															
ある	38	97.4%	527	88.6%	393	64.2%	122	19.5%	8	5.8%	0	0.0%	1088	53.7%	<0.
ない	1	2.6%	68	11.4%	219	35.8%	504	80.5%	131	94.2%	15	100.0%	938	46.3%	
HIVやエイズを習った学校はどこですか？(あてはまるものすべてに✓)															
小学校	14	36.8%	135	25.6%	66	16.8%	4	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	219	20.1%	<0.
中学校	33	86.8%	390	74.0%	225	57.3%	30	24.6%	0	0.0%	0	0.0%	678	62.3%	
高等学校	34	89.5%	384	72.9%	253	64.4%	76	62.3%	0	0.0%	0	0.0%	747	68.7%	
大学・短大	3	7.9%	82	15.6%	64	16.3%	17	13.9%	4	50.0%	0	0.0%	170	15.6%	
専門学校	0	0.0%	34	6.5%	27	6.9%	8	6.6%	4	50.0%	0	0.0%	73	6.7%	
その他具体的に	0	0.0%	5	0.9%	3	0.8%	5	4.1%	1	12.5%	0	0.0%	14	1.3%	
あなたは、友だちや知り合いにHIVに感染している人はいると感じますか？															
いない	3	7.7%	36	6.1%	41	6.7%	33	5.3%	10	7.2%	2	13.3%	125	6.2%	<0.
いないと思う	23	59.0%	177	29.7%	120	19.6%	109	17.4%	26	18.7%	3	20.0%	458	22.6%	
いると思う	5	12.8%	153	25.7%	148	24.2%	118	18.8%	30	21.6%	4	26.7%	458	22.6%	
いる	1	2.6%	100	16.8%	194	31.7%	255	40.7%	51	36.7%	5	33.3%	606	29.9%	
わからない	7	17.9%	129	21.7%	109	17.8%	111	17.7%	22	15.8%	1	6.7%	379	18.7%	
過去6ヶ月間に、恋人・彼氏とHIVについて話したことがありますか？															
ある	1	2.6%	125	21.0%	129	21.1%	144	23.0%	34	24.5%	7	46.7%	440	21.7%	<0.
ない	14	35.9%	194	32.6%	223	36.4%	275	43.9%	54	38.8%	7	46.7%	767	37.9%	
彼氏や恋人はその期間いなかった	24	61.5%	276	46.4%	260	42.5%	207	33.1%	51	36.7%	1	6.7%	819	40.4%	
過去6ヶ月間に、友だちや知り合いとHIVについて話したことがありますか？															
ある	18	46.2%	252	42.4%	279	45.6%	257	41.1%	57	41.0%	9	60.0%	872	43.0%	0.
ない	21	53.8%	343	57.6%	333	54.4%	369	58.9%	82	59.0%	6	40.0%	1154	57.0%	
過去6ヶ月間に、親や兄弟などの家族とHIVやエイズについて話したことがありますか？															
ある	2	5.1%	30	5.0%	32	5.2%	13	2.1%	3	2.2%	1	6.7%	81	4.0%	0.
ない	37	94.9%	565	95.0%	580	94.8%	613	97.9%	136	97.8%	14	93.3%	1945	96.0%	

表 5. 性行動

	10代 n=39		20代 n=595		30代 n=612		40代 n=626		50代 n=139		60歳以上 n=15		合計 N=2,026	Pearson カイ2乗	
はじめて男性とセックスをしたのはいつですか？															
9歳以下	0	0.0%	5	0.8%	4	0.7%	8	1.3%	1	0.7%	0	0.0%	18	0.9%	<0.01
10代	39	100.0%	331	55.6%	251	41.0%	189	30.2%	42	30.2%	4	26.7%	856	42.3%	
20代	0	0.0%	257	43.2%	310	50.7%	329	52.6%	62	44.6%	9	60.0%	967	47.7%	
30代	0	0.0%	0	0.0%	46	7.5%	80	12.8%	25	18.0%	1	6.7%	152	7.5%	
40代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	18	2.9%	8	5.8%	1	6.7%	27	1.3%	
50代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	1	0.0%	
覚えていない	0	0.0%	2	0.3%	1	0.2%	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.2%	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？															
ある	37	94.9%	561	94.3%	590	96.4%	601	96.0%	136	97.8%	14	93.3%	1939	95.7%	0.35
ない	2	5.1%	34	5.7%	22	3.6%	25	4.0%	3	2.2%	1	6.7%	87	4.3%	
一番最後にアナルセックスをしたのはいつですか？															
現在から過去6ヶ月の間	30	81.1%	432	77.0%	413	70.0%	369	61.4%	86	63.2%	11	78.6%	1341	69.2%	<0.01
過去6ヶ月間から過去1年間の間	4	10.8%	60	10.7%	68	11.5%	60	10.0%	15	11.0%	2	14.3%	209	10.8%	
1年以上前	2	5.4%	63	11.2%	99	16.8%	165	27.5%	32	23.5%	1	7.1%	362	18.7%	
覚えていない	1	2.7%	6	1.1%	10	1.7%	7	1.2%	3	2.2%	0	0.0%	27	1.4%	
一番最後にアナルセックスをした時、コンドームを使用しましたか？															
使った	18	48.6%	319	56.9%	358	60.7%	352	58.6%	81	59.6%	7	50.0%	1135	58.5%	0.75
使わなかった	18	48.6%	222	39.6%	215	36.4%	233	38.8%	52	38.2%	7	50.0%	747	38.5%	
覚えていない	1	2.7%	20	3.6%	17	2.9%	16	2.7%	3	2.2%	0	0.0%	57	2.9%	

6. 献血学習歴・身近さ (表 6)

献血についての学校等での学習については全体で、経験あり 43.6%、経験なし 56.4%であり、年齢階級別にみると、10代 61.5%、20代 61.7%、30代 44.3%、40代 28.0%、50代 30.2%、60歳以上 33.3%だった。HIV/エイズに比べると、全体では 10%程度低かった。学習機会のあった学校としては、高等学校 67.5%が最も多く、中学校 64.5%、小学校 32.4%、大学・短大 15.8%が続いた。

友だちや知り合いに献血をしている人がいるかという問いでは、「いる (47.8%)」が最も多く、「いると思う (35.1%)」、「わからない (10.0%)」、「いないと思う (5.9%)」、「いない (1.2%)」と続いた。ただし、この「友だちや知り合い」は設問において MSM に限定していないことを付言する。

7. 献血行動 (表 7、8)

献血の生涯経験は、全体で 65.8%が献血したことがあると回答していた。年齢階級別にみると、10代 25.6%、20代 51.8%、30代 65.5%、40代 76.7%、50代 85.6%、60歳以上 100%だった。はじめて献血をした時期については全体では、10代の時期 54.0%、20代の時期 40.6%、30代の時期 3.7%、40代の時期 0.8%、覚えていない 1.0%だった。

一方、生涯に献血をしたことがない回答者を対象に、その理由も一般集団を対象とした先行研究の指標を用いて本調査では訊いた。最も多い理由が「性行動等による献血制限で献血したくてもできなかった (27.0%)」が最も多く、「針を刺すのが痛くて嫌だから (18.8%)」、「なんとなく不安だから (14.7%)」、「時間がかかりそうだから (14.1%)」、「恐怖心 (13.6%)」、「健康上できないと思ったから (12.8%)」、「なんとなく (12.8%)」、「そ

の他 (12.3%)」、「献血する意志がないから (11.5%)」、「近くに献血する場所や機会がなかったから (11.5%)」が続いていた。

最後に献血をした時期では、過去 1 年間 21.8%、1～2 年前 12.8%、3 年以上前 65.4%だった。過去 1 年間の献血経験を年齢階級別にみると、10代 40.0%、20代 31.5%、30代 18.7%、40代 20.0%、50代 12.6%、60歳以上 26.7%だった。最後の献血の動機については、「自分の血液が役立ってほしいから (57.5%)」、「輸血用の血液が不足していると聞いたから (35.5%)」、「社会の役に立ちたいから (28.3%)」と社会貢献の動機が多くを占めており、「健康管理のため (27.0%)」、「お菓子やジュースがもらえるから (25.8%)」、「なんとなく (23.8%)」がこれに続いた。

生涯に献血経験のある者にたいして学校や職場での集団献血についても本研究では訊いており、46.0%が集団献血の経験があると答えた。年齢階級別にみると、10代 2件 (20.0%)、20代 128 件 (12.8%)、30代 166 件 (41.4%)、40代 248 件 (51.7%)、50代 62 件 (52.1%)、60歳以上 7 件 (46.7%) だった。集団献血を行った場所では、学校 47.8%が最も多く、職場 44.0%、献血イベント 7.2%がこれに続いていた。

自由記述の回答のなかには下記のように、職場の同調圧力により、望まないかたちでの献血に応じたケースについて書かれた。

「職場の献血压力に負けて献血しました。適当な理由で断ろうとしたけどいい理由が思いつかず、結果、献血してしまいました。献血を職場で勧めるのはやめて欲しいです」

生涯に献血経験のある者にたいして HIV 検査の代わりに献血をしたことがあるかについても訊いており、「ある (4.1%)」54 件、「答えたくない (0.9%)」12 件だった。

表 6. 献血学習歴・身近さ

	10代 n=39	20代 n=595	30代 n=612	40代 n=626	50代 n=139	60歳以上 n=15	合計 N=2,026	Pearson カイ2乗
これまでに学校の授業で献血について習ったことはありますか？								
ある	24	367	271	175	42	5	884	43.6%
ない	15	228	341	451	97	10	1142	56.4%
献血を習った学校はどこですか？(あてはまるものすべてに✓)								
小学校	12	136	90	42	7	0	287	32.4%
中学校	20	263	169	94	23	3	572	64.5%
高等学校	17	247	187	123	22	3	599	67.5%
大学・短大	1	80	39	13	7	0	140	15.8%
専門学校	1	22	25	9	1	1	59	6.7%
その他	0	2	3	1	1	0	7	0.8%
あなたは、友だちや知り合いが献血をしていると思いますか？								
いない	0	9	7	6	1	1	24	1.2%
いないと思う	4	41	31	38	5	1	120	5.9%
いると思う	11	178	217	236	66	3	711	35.1%
いる	22	317	303	265	52	9	968	47.8%
わからない	2	50	54	81	15	1	203	10.0%
過去 6ヶ月間に、恋人・彼氏と献血について話したことがありますか？								
ある	6	60	76	50	11	1	204	10.1%
ない	15	298	334	396	93	14	1150	56.8%
彼氏や恋人はその期間いなかった								
た	18	237	202	180	35	0	672	33.2%
過去 6ヶ月間に、友だちや知り合いと献血について話したことがありますか？								
ある	16	180	132	92	21	2	443	21.9%
ない	23	415	480	534	118	13	1583	78.1%
過去 6ヶ月間に、親や兄弟などの家族と献血について話したことがありますか？								
ある	12	95	53	36	11	3	210	10.4%
ない	27	500	559	590	128	12	1816	89.6%

表 7. 献血行動①

	10代 n=39	20代 n=595	30代 n=612	40代 n=626	50代 n=139	60歳以上 n=15	合計 N=2,026	Pearson カイ2乗							
これまでに献血をしたことがありますか？															
ある	10	25.6%	308	51.8%	401	65.5%	480	76.7%	119	85.6%	15	100.0%	1333	65.8%	<0.01
ない	29	74.4%	287	48.2%	211	34.5%	146	23.3%	20	14.4%	0	0.0%	693	34.2%	
はじめて献血をしたのはいつですか？															
10代	10	100.0%	197	64.0%	215	53.6%	237	49.4%	59	49.6%	2	13.3%	720	54.0%	<0.01
20代	0	0.0%	107	34.7%	166	41.4%	202	42.1%	53	44.5%	13	86.7%	541	40.6%	
30代	0	0.0%	1	0.3%	16	4.0%	28	5.8%	4	3.4%	0	0.0%	49	3.7%	
40代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	1.7%	2	1.7%	0	0.0%	10	0.8%	
覚えていない	0	0.0%	3	1.0%	4	1.0%	5	1.0%	1	0.8%	0	0.0%	13	1.0%	
献血をこれまでしなかった理由は下記のうち、どれにあてはまりますか？(あてはまるものすべてに✓)															
献血を申し込んだが、基準に達しなくて断られたから	1	3.4%	31	10.8%	11	5.2%	20	13.7%	1	5.0%	0	0.0%	64	9.2%	
献血場所に入りづらかったから	6	20.7%	33	11.5%	14	6.6%	12	8.2%	3	15.0%	0	0.0%	68	9.8%	
呼び込みが強引で嫌だったから	1	3.4%	16	5.6%	9	4.3%	7	4.8%	1	5.0%	0	0.0%	34	4.9%	
献血場所が遠いので面倒だから	3	10.3%	17	5.9%	6	2.8%	3	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	29	4.2%	
近くに献血する場所や機会がなかったから	5	17.2%	40	13.9%	22	10.4%	12	8.2%	1	5.0%	0	0.0%	80	11.5%	
どこで献血ができるか分からないから	1	3.4%	14	4.9%	3	1.4%	1	0.7%	1	5.0%	0	0.0%	20	2.9%	
時間がかかりそうだから	8	27.6%	45	15.7%	25	11.8%	17	11.6%	3	15.0%	0	0.0%	98	14.1%	
忙しくて献血する時間がなかったから	7	24.1%	38	13.2%	15	7.1%	9	6.2%	1	5.0%	0	0.0%	70	10.1%	
自分が献血しなくても誰かがやると思ったから	4	13.8%	24	8.4%	17	8.1%	13	8.9%	0	0.0%	0	0.0%	58	8.4%	
自分の血液が役に立たないと思ったから	2	6.9%	22	7.7%	16	7.6%	12	8.2%	2	10.0%	0	0.0%	54	7.8%	
血液が無駄にされていると聞いたから	0	0.0%	3	1.0%	3	1.4%	5	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	11	1.6%	
針を刺すのが痛くて嫌だから	7	24.1%	59	20.6%	39	18.5%	25	17.1%	0	0.0%	0	0.0%	130	18.8%	
なんとなく不安だから	8	27.6%	43	15.0%	28	13.3%	18	12.3%	5	25.0%	0	0.0%	102	14.7%	
健康上でできないと思ったから	1	3.4%	34	11.8%	33	15.6%	19	13.0%	2	10.0%	0	0.0%	89	12.8%	
病気がうつると思ったから	2	6.9%	5	1.7%	4	1.9%	4	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	15	2.2%	
献血すると書いたら、友人や家族からとめられたから	1	3.4%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%	
血液を採られるという感じが嫌だから	5	17.2%	29	10.1%	24	11.4%	17	11.6%	1	5.0%	0	0.0%	76	11.0%	
自分の血液が役に立たないと思ったから	5	17.2%	45	15.7%	25	11.8%	19	13.0%	0	0.0%	0	0.0%	94	13.6%	
職員の状態が悪いので献血したくないから	0	0.0%	2	0.7%	3	1.4%	2	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.0%	
献血する意志がないから	4	13.8%	35	12.2%	26	12.3%	13	8.9%	2	10.0%	0	0.0%	80	11.5%	
性行動等による献血制限で献血したくてもできなかったから	8	27.6%	91	31.7%	53	25.1%	34	23.3%	1	5.0%	0	0.0%	187	27.0%	
薬を服用しているため献血ができないから	0	0.0%	14	4.9%	16	7.6%	17	11.6%	3	15.0%	0	0.0%	50	7.2%	
なんとなく	6	20.7%	35	12.2%	28	13.3%	17	11.6%	3	15.0%	0	0.0%	89	12.8%	
その他	1	3.4%	24	8.4%	38	18.0%	17	11.6%	5	25.0%	0	0.0%	85	12.3%	

表 8. 献血行動②

	10代 n=39	20代 n=595	30代 n=612	40代 n=626	50代 n=139	60歳以上 n=15	合計 N=2,026	Pearson カイ2乗							
一番最後に献血をしたのはいつですか？															
過去1年間	4	40.0%	97	31.5%	75	18.7%	96	20.0%	15	12.6%	4	26.7%	291	21.8%	<0.01
1～2年前	3	30.0%	70	22.7%	54	13.5%	31	6.5%	12	10.1%	0	0.0%	170	12.8%	
3年以上前	3	30.0%	141	45.8%	272	67.8%	353	73.5%	92	77.3%	11	73.3%	872	65.4%	
一番最近に献血するきっかけになったのは次のうちどれですか？(あてはまるものすべてに✓)															
自分の血液が役にたつから	4	40.0%	168	54.5%	234	58.4%	285	59.4%	69	58.0%	6	40.0%	766	57.5%	
輸血用の血液が不足していると聞いたから	2	20.0%	95	30.8%	146	36.4%	176	36.7%	47	39.5%	7	46.7%	473	35.5%	
自分の血液の検査結果が自分の健康管理のため	1	10.0%	80	26.0%	103	25.7%	137	28.5%	35	29.4%	4	26.7%	360	27.0%	
将来自分や家族などが輸血を受ける時に備えたいから	0	0.0%	19	6.2%	26	6.5%	35	7.3%	13	10.9%	2	13.3%	95	7.1%	
過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから	0	0.0%	13	4.2%	14	3.5%	21	4.4%	4	3.4%	2	13.3%	54	4.1%	
血液型を知ることができるから	0	0.0%	12	3.9%	12	3.0%	24	5.0%	1	0.8%	0	0.0%	49	3.7%	
周囲からすすめられてお菓子やジュースがもらえるから	2	20.0%	24	7.8%	26	6.5%	22	4.6%	3	2.5%	1	6.7%	78	5.9%	
テレビやDVDが観られるから	1	10.0%	15	4.9%	23	5.7%	11	2.3%	1	0.8%	0	0.0%	51	3.8%	
誘われて断ることができなかつたから	1	10.0%	17	5.5%	16	4.0%	19	4.0%	4	3.4%	0	0.0%	57	4.3%	
マッサージなどのサービスが受けられるから	0	0.0%	3	1.0%	4	1.0%	4	0.8%	2	1.7%	0	0.0%	13	1.0%	
社会の役に立ちたいから	1	10.0%	80	26.0%	112	27.9%	151	31.5%	30	25.2%	3	20.0%	377	28.3%	
なんとなく	4	40.0%	78	25.3%	115	28.7%	107	22.3%	12	10.1%	1	6.7%	317	23.8%	
その他	0	0.0%	16	5.2%	27	6.7%	31	6.5%	8	6.7%	1	6.7%	83	6.2%	
これまでに学校や職場等での集団献血をしたことがありますか？															
ある	2	20.0%	128	41.6%	166	41.4%	248	51.7%	62	52.1%	7	46.7%	613	46.0%	<0.01
ない	8	80.0%	180	58.4%	235	58.6%	232	48.3%	57	47.9%	8	53.3%	720	54.0%	
集団献血をした場所はどこですか？															
学校	1	50.0%	86	67.2%	83	50.0%	102	41.1%	19	30.6%	2	28.6%	293	47.8%	<0.01
職場	1	50.0%	34	26.6%	68	41.0%	127	51.2%	37	59.7%	3	42.9%	270	44.0%	
献血イベント	0	0.0%	7	5.5%	13	7.8%	17	6.9%	5	8.1%	2	28.6%	44	7.2%	
献血センター	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	
赤十字センター	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)の代わりに献血をしたことがありますか？															
ある	0	0.0%	8	2.6%	13	3.2%	22	4.6%	8	6.7%	3	20.0%	54	4.1%	<0.01
ない	10	100.0%	294	95.5%	386	96.3%	454	94.6%	111	93.3%	12	80.0%	1267	95.0%	
答えたくない	0	0.0%	6	1.9%	2	0.5%	4	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	12	0.9%	
これからも献血をしたいと思いませんか？															
はい	3	30.0%	153	49.7%	180	44.9%	197	41.0%	44	37.0%	4	26.7%	581	43.6%	<0.01
いいえ	4	40.0%	60	19.5%	101	25.2%	146	30.4%	45	37.8%	7	46.7%	363	27.2%	
わからない	3	30.0%	95	30.8%	120	29.9%	137	28.5%	30	25.2%	4	26.7%	389	29.2%	

8. 献血知識・制限事項 (表 9)

献血に関連する知識について「知っている」と回答したのがそれぞれ、「HIV 感染に気づかずに献血することで他の人に感染を起こしてしまう可能性がある」88.8%、「献血では HIV 検査の結果を伝えていない」74.3%、「日本では献血血液を厳格に検査するシステムが導入されている」64.1%、「HIV の感染初期では、現在の技術では血液からウイルスを完全には検出できない」61.8%だった。

献血の制限事項について聞いたことがあると回答しているのが 81.2%であり、その条件を知った場所は「献血場所 (70.2%)」が最も多く、「口コミ (18.8%)」、「HIV に関するニュース (17.7%)」、「日本赤十字のウェブサイト (16.6%)」がこれに続いた。

本研究では現在、献血の際に示される献血の制限事項の内容を質問紙上で示し、それをどのように感じるかについても訊いた。その結果、「とても適切だ (28.1%)」、「ある程度適切だ (46.5%)」、「適切ではない (18.3%)」、「まったく適切ではない (7.0%)」だった。

なおこの質問項目には自由記述欄を併設しており、「ある程度適切だ」と回答している者のなかでも、「学生時代、男性同士接触という項目で同級生がバカにして盛り上がっていたことに、とても心を痛めた思い出があります。もう少し別の表記出来ないかと思えます。」「科学技術発展で、即時にわかるシステムができないと、おいそれと献血に協力できない現状はしょうがないし、不特定に受け入れざるを得ないのだから、

現状で線引きは仕方ないと思う」、「ゲイでも献血をして、役立ちたいと思うけれど、男性同士の性的接触があれば、それが特定の人であっても、献血できないということがあまり理解できない」などの記述があった。

最後に、献血を制限する条件が必要な理由についてもっと知りたいと思うかという設問については、「知りたい (49.7%)」、「どちらでもない (43.5%)」、「知りたくない (6.8%)」だった。

考察

分析対象者の居住地は、北海道・東北 (9.2%)、東京 (22.3%)、関東・甲信越 (除く東京) (19.6%)、東海 (12.1%)、北陸 (1.5%)、近畿 (17.5%)、中国・四国 (6.3%)、九州 (11.4%) と、エイズ動向委員会の報告地の分布に近い回答を全国から得ることができた。回答者の年齢は 20 代 595 件 (29.4%)、30 代 612 件 (30.2%)、40 代 626 件 (30.9%) であり、20 代～40 代で 9 割を占めており、性的に活発な年齢層の回答を得ることができたと考える。

HIV 検査の生涯受検経験は、全体で 70.7% が受検したことがあると回答していた。友だちや知り合いに HIV に感染している人がいると思うかという問いでは、「いる」、「いると思う」をあわせると半数を超えていたが、「いないと思う (22.6%)」、「わからない (18.7%)」、「いない (6.2%)」と HIV に対してリアリティや身近さを十分に感じていない層も存在した。

表 9. 献血知識・制限事項評価

	10代 n=39	20代 n=595	30代 n=612	40代 n=626	50代 n=139	60歳以上 n=15	合計 N=2,026	Pearson カイ2乗
献血では HIV 検査の結果を伝えていないことを知っていますか？								
知っている	17	43.6%	403	67.8%	453	74.1%	506	81.0%
知らない	22	56.4%	191	32.2%	158	25.9%	119	19.0%
HIV の感染初期では、血中ウイルス量がごく微量であるため、現在の技術ではウイルスを完全には検出することができないことを知っていますか？								
知っている	17	43.6%	336	56.5%	379	62.0%	410	65.6%
知らない	22	56.4%	259	43.5%	232	38.0%	215	34.4%
輸血での HIV 感染が起らないよう、日本では献血された血液を厳格に検査するシステムが導入されていることを知っていますか？								
知っている	21	53.8%	326	55.9%	392	64.9%	425	69.3%
知らない	18	46.2%	257	44.1%	212	35.1%	188	30.7%
HIV 感染に気づかずに献血をすることで、他の人に HIV 感染を起こしてしまう可能性があることを知っていますか？								
知っている	31	79.5%	522	88.2%	536	87.7%	565	90.3%
知らない	8	20.5%	70	11.8%	75	12.3%	61	9.7%
これまでに住行動などによる理由で献血を制限する条件があることを聞いたことがありますか？								
聞いたことがある	23	59.0%	499	83.9%	518	84.6%	497	79.4%
聞いたことがない	16	41.0%	96	16.1%	94	15.4%	129	20.6%
どこで献血を制限する条件を知りましたか？ (あてはまるものすべてに)								
献血場所	14	60.9%	326	65.2%	371	71.6%	362	72.8%
日本赤十字のウェブサイト	4	17.4%	94	18.8%	86	16.6%	78	15.7%
口コミ	8	34.8%	115	23.0%	101	19.5%	72	14.5%
学校	5	21.7%	95	19.0%	42	8.1%	9	1.8%
職場	1	4.3%	25	5.0%	18	3.5%	16	3.2%
ニュース報道	5	21.7%	41	8.2%	44	8.5%	42	8.5%
HIV に関するニュース	5	21.7%	83	16.6%	95	18.3%	96	19.3%
その他	0	0.0%	14	2.8%	16	3.1%	13	2.6%
日本では献血を制限する条件について、下記のように提示されています。そのことについてどう思いますか？								
とても適切だ	15	38.5%	163	27.4%	168	27.5%	177	28.3%
ある程度適切だ	20	51.3%	281	47.2%	277	45.3%	295	47.1%
適切ではない	2	5.1%	114	19.2%	124	20.3%	110	17.6%
まったく適切ではない	2	5.1%	37	6.2%	43	7.0%	44	7.0%
2014年にアメリカで男性同性間の行為がある人が条件つきで、献血できるように制限が改定されたことについて知っていましたか？								
アメリカに献血制限条件がある								
こと自体を知らなかった	7	17.9%	162	27.2%	175	28.6%	174	27.8%
知っている	3	7.7%	38	6.4%	55	9.0%	38	6.1%
知らなかった	29	74.4%	395	66.4%	382	62.4%	414	66.1%
献血を制限する条件が必要な理由についてもっと知りたいと思いませんか？								
知りたい	21	53.8%	297	49.9%	314	51.3%	304	48.6%
知りたくない	3	7.7%	45	7.6%	44	7.2%	35	5.6%
どちらでもない	15	38.5%	253	42.5%	254	41.5%	287	45.8%

自分が HIV に感染している可能性についての自己評価は、ほとんどない (60.3%)、まったくない (23.1%) と多くを占めた。一方で、最後のアナルセックス時のコンドーム使用について、「使わなかった (38.5%)」と回答しており予防行動がともなっていない傾向もみえた。

献血経験割合は回答者の 65.8% であり、そのうち、21.8% が過去 1 年に献血をしていた。献血をする動機としては、社会貢献の意識が最も多く、次いで健康管理などが挙げられた。その一方で、HIV 検査代わりに献血をする人 (4.1%) だった。この結果は、居住地など回答者の背景や一般層との比較が待たれるが、MSM の献血行動を取る者のうち、多くの者は社会貢献を動機としていたといえる。

回答者のうち、同性との性行動を開始した時期は 10 ~ 20 代で 90% あった。こうした状況と、献血に関して集団献血や知識の提供の時期と場所に課題が見えた。

集団献血の経験者は回答者全体の 46.0% で、そのうち、学校が 47.8%、職場が 44.0% だった。自由記述のなかには、集団献血時に適切な理由で献血を断ろうとしたが集団圧力により献血してしまった回答があった。集団献血時には周りに気付かれないように、対象からはずす工夫やその方法の周知が欲しいとの意見も寄せられた。

献血についての学校等での学習機会については回答者全体で、経験あり (43.6%) だった。特に、10 代 (61.5%)、20 代 (61.7%)、30 代 (44.3%) では高い傾向がみられた。献血に関する知識では、「HIV 感染に気づかずに献血することで他の人に感染を起こしてしまう可能性がある」88.8%、「献血では HIV 検査の結果を伝えていない」74.3%、「日本では献血血液を厳格に検査するシステムが導入されている」64.1%、「HIV の感染初期では、現在の技術では血液からウイルスを完全には検出できない」61.8% が知っている と回答している。

献血の制限項目の認識は 81.2% が認知をしているものの、それを知った場所が献血場所で知ったという人が 70.2% と最も多く、学校教育も含めた、事前の情報提供による課題が残された。

また、制限項目が、「適切ではない (18.3%)」、「まったく適切ではない (7.0%)」となっており、制限が不適切と認識する回答者も少なくなかった。前年のインタビューからは、こうした意識が制限を解除する方向に作用するという語りも聞かれたため、今後引き続き分析を行い、実際の行動と申告内容の齟齬を提言することに役立つ提言を行う予定である。

献血を制限する条件が必要な理由について問う質問では、「もっと知りたい (49.7%)」と高く、制限についてのより一層の周知が求められる。

本調査の限界と今後の課題

本アンケートでは、リクルートの方法により母集団に対して比較的若年層に回答が偏る傾向の限界はある

が、性的に活発な年齢の MSM 集団から回答協力を得ることに成功した。また都市部に加え地方の地域からの回答もあり、全国の MSM から回答を得ることができた。

今回の分析は MSM (性別を男性と回答・同性と性経験がある) に限定し、年齢階級毎の分析対象の特性について記述統計を行った。各変数間の関連については十分な検討が行われていないため、更なる分析が求められる。

結論

献血経験割合は回答者の 65.8% であり、21.8% が過去 1 年に献血をしていた。献血をする動機は社会貢献の意識が最も多く、次いで健康管理などが挙げられている。その一方で、HIV 検査代わりに献血をする人 (4.1%) 答えたくないが 0.9% だった。

回答者のうち、同性との性行動を開始した時期は 10 ~ 20 代で 90% あった。こうした状況と、献血に関して集団献血や知識の提供の時期と場所に課題が見えた。集団献血の経験者は回答者全体の 46.0% で、そのうち、学校が 47.8%、職場が 44.0% だった。

献血の制限項目の認識は 81.2% が認知をしているものの、献血場所で知ったという人が 70.2% と最も多く、学校教育も含めた、事前の情報提供による周知に課題がのこされていることが示唆された。

また、制限項目が、「適切ではない (18.3%)」、「まったく適切ではない (7.0%)」となっており、制限が不適切と認識する回答者も少なくなかった。

献血を制限する条件が必要な理由について問う質問では、「もっと知りたい (49.7%)」と高く、制限についてのより一層の周知が求められる。

献血者側の意識を高め、実態に即した現状を問診回答できるように、齟齬を是正するための取り組みが必要とされている。

健康危険情報

該当なし

研究発表

1) 論文発表

- 1 生島嗣. HIV 陽性者支援の現場から ~ MSM (男性とセックスをする男性) への支援を中心に. こころの科学 186 号. 62-65, 2016.
- 2 生島嗣. LGBT と HIV. こころの科学 189 号. 62-65, 2016.
- 3 生島嗣. ぷれいす東京の活動について. 病原微生物検出情報 (IASR) 37, 9: 8-10, 2016.
- 4 生島嗣. 信じて自分の秘密を打ち明けることから変化は始まった. 季刊セクシュアリティ 70 号. 56-61, 2015.
- 5 生島嗣. HIV・HIV 感染症一正しく知って、偏見の

ない社会を. いろいろな性、いろいろな生き方. ポプラ社. 62-63, 2015.

- 6 生島嗣. 第 4 章 治療と管理・対応: (ア) HIV 陽性者へのサポートと NPO / NGO. 最新医学 別冊 HIV 感染症と AIDS 改訂第 2 版. 最新医学社. 253-261, 2014.

2) 学会発表

- 1 生島嗣、野坂祐子、山口正純、藤田彩子、大島岳、三輪岳史、大槻知子、林神奈、樽井正義. MSM の薬物使用・不使用に関わる要因の調査～薬物使用経験のある MSM を対象としたインタビュー調査から. 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島.
- 2 佐藤郁夫、福原寿弥、生島嗣、岩橋恒太、荒木順子、岡慎一、高野操. 医療機関と NGO の連携による HIV 検査キット配布会における対面相談希望者の相談内容に関する検討. 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島.
- 3 高野操、岩橋恒太、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也、生島嗣、佐藤郁夫、中山保世、小日向弘雄、友成喜代美 5、土屋亮人、杉野祐子、池田和子、小形幹子、田中和子、市川誠一、菊池嘉、岡慎一. 医療機関と NGO の連携による郵送検査の手法を用いた HIV 検査の取り組み. 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島.
- 4 岩橋恒太、高野操、荒木順子、木南拓也、佐久間久弘、生島嗣、市川誠一、岡慎一. 医療機関と NGO の連携による、MSM を対象とした HIV 検査 "HIVcheck" における啓発とキット配布体制に関する検討. 日本エイズ学会、2016 年、鹿児島.
- 5 生島嗣、牧原信也、福原寿弥. NPO による対面相談のニーズとその対応に関する考察. 日本エイズ学会、2015 年、東京.
- 6 野坂祐子、生島嗣. 薬物使用経験のある HIV 陽性 MSM の心理社会的要因～生態モデルによる分析から. 日本エイズ学会、2015 年、東京.
- 7 生島嗣、岡本学、池田和子、渡部恵子、遠藤知之、伊藤ひとみ、伊藤俊広、川口玲、田邊嘉也、羽柴知恵子、横幕能行、高山次代、上田幹夫、下司有加、白阪琢磨、木下一枝、藤井輝久、城崎真弓、山本政弘、岡慎一、若林チヒロ. ブロック拠点病院と ACC における「健康と生活調査」～薬物使用の状況～. 日本エイズ学会、2014 年、大阪.
- 8) 野坂祐子、生島嗣、岡本学、山口正純、中山雅博、大槻知子、肥田明日香、白野倫徳、樽井正義. HIV 陽性 MSM における薬物使用とその関連要因～薬物使用経験のある HIV 陽性者のインタビューを中心に～. 日本エイズ学会、2014 年、大阪.
- 9 池田和子、若林チヒロ、岡本学、渡部恵子、遠藤知之、伊藤ひとみ、伊藤俊広、川口玲、田邊嘉也、羽柴知恵子、横幕能行、高山次代、上田幹夫、下司有加、白阪琢磨、木下一枝、藤井輝久、城崎真弓、山本政弘、岡慎一、生島嗣. ブロック拠点病院と ACC における「健康と生活調査」～HIV 治療と他疾患管理の課題～. 日本エイズ学会、2014 年、大阪.
- 10 大金美和、池田和子、若林チヒロ、坂本玲子、遠藤知之、伊藤ひとみ、伊藤俊広、川口玲、田邊嘉也、羽柴知恵子、横幕能行、山田三枝子、上田幹夫、下司有加、白阪琢磨、伴浦文子、藤井輝久、城崎真弓、山本政弘、岡慎一、生島嗣. ブロック拠点病院と

ACC における「健康と生活調査」～自覚症状とメンタルヘルス～. 日本エイズ学会、2014 年、大阪.

- 11 岡本学、生島嗣、大金美和、坂本玲子、遠藤知之、伊藤ひとみ、伊藤俊広、川口玲、田邊嘉也、羽柴知恵子、横幕能行、山田三枝子、上田幹夫、下司有加、白阪琢磨、伴浦文子、藤井輝久、城崎真弓、山本政弘、岡慎一、若林チヒロ. ブロック拠点病院と ACC における「健康と生活調査」～就労と職場環境～. 日本エイズ学会、2014 年、大阪.
- 12 若林チヒロ、大木幸子、生島嗣. HIV 陽性者の地域生活とエイズ政策評価. 日本公衆衛生学会、2014 年、栃木.

3) 国際学会

- 1 Ohtsuki, T., Wakabayashi, C., Ikushima, Y., Yamaguchi, M., and Tarui, M. Resolved and Unresolved Issues among People Living with HIV in Japan After 10 Years of Advancement in Medical Environment: Results from Nationwide Multicenter Surveys from 2003 to 2013. The 21st International AIDS Conference, July 18-22, 2016, Durban, South Africa.
- 2 Wakabayashi, C., Ikushima, Y., Okamoto, G., Tsurumi, H., Endo, T., Iwasaki, H., Oki, S., Kataoka, R., Sato, A., and Ohtsuki, T. The Employment and Work Environment of People Living with HIV in Japan: Based on the Nationwide Survey. The 20th International AIDS Conference, July 20-25, 2014, Melbourne, Australia.
- 3 Wakabayashi, C., Ikushima, Y., Okamoto, G., Tsurumi, H., Endo, T., Iwasaki, H., Oki, S., Sato, A., Kataoka, R., and Ohtsuki, T. Drug Use in HIV-positive Individuals in Japan: Based on the Nationwide Survey. The 20th International AIDS Conference, July 20-25, 2014, Melbourne, Australia.

参考文献

- 1 若林チヒロ、生島嗣他: HIV 陽性者の生活と社会参加に関する研究, 厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 25 年度総括・分担研究報告書 地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究, 39-96, 2014
- 2 塩野徳史, 市川誠一他: 日本の成人男性および成人女性における個別施策層の状況と HIV 抗体検査行動, 性行動に関する研究, 厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 26 年総括・分担研究報告書 MSM の HIV 感染対策の企画, 実施, 評価の体制整備に関する研究, 303-320, 2014
- 3 杉本和隆, 高西優子他: 海外における献血血液への HIV 混入の防止対策: 教育・面接等を中心としたスクリーニング方法, 日本エイズ学会誌, 7 (1), 23-30, 2005
- 4 嶋根卓也, 日高庸晴他: インターネットによる MSM の HIV 感染予防に関する行動疫学研究 -REACH Online 2011-, 厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 平成 24 年度総括・分担研究報告書 HIV 感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論

による予防介入と多職種対人援助職による支援体制
構築に関する研究, 127-249, 2012

知的財産権の出願・取得状況

該当なし